

# 要 望 書

令和3年11月に開催した第8回議会報告会において、各常任委員会が所管する団体との意見交換の際にいただいた御意見・御要望を基に、各常任委員会を中心に、市議会において市執行部に対する意見等の整理・検討を行い、次のとおり要望いたしますので、今後の市政運営に反映されるよう求めるものです。

令和4年3月25日

秦野市長 高橋 昌和 様

秦野市議会議長 小 菅 基 司

## 【総務常任委員会：学生団体E 4】

秦野市内在住・在学の高校生等からなる学生団体E 4は、自分たちが暮らしているまち秦野をより良くするためにはどうしたらよいか等について、日々志を高く持って活動をされている。

学生団体E 4と当委員会で実施した意見交換では、若者が地元により愛着を持てるように、秦野に関する様々な情報について若者に働きかけることはもちろんだが、親世代に対しての働きかけも必要であることや、市内学校の自動販売機でおいしい秦野の水を販売しPRを図ってはどうかなど、市政に関して幅広く御意見をいただいた。

そこで当委員会としては、こうした若者の市政に対する貴重な意見等に基づいて協議の上、市執行部に対して次の事項を要望する。

- 1 学生団体E 4をはじめとした、若者の活動をバックアップするための担当組織を明確に位置付けること。
- 2 駅周辺等の身近なところで、学生たちが語り合え、様々な地元の情報を知ることができる環境の整備を行うこと。
- 3 若者向けの市政懇談会を開催するなど、若者の意見を幅広く取り入れ市政に反映する取組を検討すること。
- 4 SNSによる広報宣伝を強化し、はだのふるさと大使の積極的な活用等により、さらなる情報発信に努めること。
- 5 地域の歴史や文化を広く継承するとともに本市の魅力を発信するため、市民講座等の動画配信を検討すること。

## 【文教福祉常任委員会：在宅医療と介護の連携における関係団体】

南アフリカで報告された新型コロナウイルス感染症の新たな変異株について、日本国内においても感染者が報告されており、警戒感が高まっているような状況の中、医療や介護の分野で従事されている方々は、日々感染のリスクと闘いながら、それぞれの現場で御尽力いただいている。

本市の在宅医療・介護連携推進事業については、適切な事業運営がされていると考えるが、施設の入退所については関係機関における連携のもと、今後はリモートによる面談を活用するなど、コロナ禍においても、さらに円滑に進むよう検討する必要がある。

また、意見交換を実施したことで、在宅医療・介護連携推進事業以外にも、医療や介護の現場では様々な課題があることが分かったので、当委員会としては、市執行部に対して次の事項を要望する。

- 1 級地区分の見直しについて、市として政府に対し引き続き要望すること。
- 2 本市が参加しているエイジフレンドリーシティの基本理念に基づき、シルバーカーや歩行器を使用する高齢者等が安全に通行できるよう、環境整備に努めること。

## 【環境都市常任委員会：交通事業者】

市内を運行している鉄道、バス、タクシー及び乗合自動車等は、通勤・通学や通院、買い物などに利用され、我々の生活に欠かすことのできない大切な財産である。

近年は、自家用車の普及や少子高齢化などの影響により、全国的にも公共交通の利用者は減少傾向にある。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、緊急事態宣言下では外出自粛が呼びかけられるなど、交通事業者の業績は厳しい状況が続き、経営に多大なる影響を与えた。

このような状況の中、今後も公共交通を確保・維持していくためには、市民や市外からの来訪者が、積極的に市内の公共交通機関を利用するような取組が肝要となる。

そこで、当委員会としては、秦野が持つ豊かな自然環境などの高いポテンシャルをさらに生かすため、渋沢丘陵や震生湖などの観光地について、PRを含めた環境整備を市執行部に対して要望する。観光地の環境整備をすることで、公共交通利用者の目的地となり、人の流れが生まれ、市内の公共交通機関や景気にも良い影響が出てくると考える。

また、交通事業者の乗務員不足も課題であり、乗務員募集に係るチラシ等を掲示する場所の提供など、乗務員不足解消のため、本市としても可能な限り支援することを、市執行部に対して要望する。